

フィールドのいまとむかし

岡山県吉井川水系倉安川と角山用水

いきなり脱線するが、1981年に岡山県旭川水系の水路をはじめて訪れたときの感想は、「魚が少ない」であった。それほどに倉安川と角山用水の2本の農業水路では淡水魚が豊富だったからである。小魚の数はあまりかわらなかったと思うが、なによりもコイ、コウライニゴイ、ナマズなど大型の魚が多かった。1970年代半ばのことである。言わずと知れた、アユモドキとスイゲンゼニタナゴのかつての一大生息地。兩岸は石垣積みで、その歴史は江戸時代にまでさかのぼるといふ(写真1)。



写真1



写真2



写真3



写真4



この場所も1977年ごろから国営かんがい排水事業により3面コンクリート化され、水路幅が1/3ほどに狭められた。狭められた残りは道路となった(写真2, 4)。写真3はその改修中のもので、未工区との境目に一時的に土のうが積まれている。

魚の隠れ場がなくなり、流速も早くなったので、今ではオイカワぐらいしかみられない。写真1と3は1977年春ごろ、2は2015年11月30日、4は2016年7月29日撮影。

文責；齊藤憲治